

京都市民長寿すこやかプラン推進協議会市民公募委員の応募状況について

1 応募数 29人(募集期間:22日間)

2 年代別内訳

(単位:人)

性別	20～39歳	40～64歳	65歳～	合計
男性	1	7	11	19
女性	0	5	5	10
合計	1	12	16	29

3 行政区別内訳

(単位:人)

区	性別	20～39歳	40～64歳	65歳以上	小計	合計
北	男性			1	1	2
	女性			1	1	
上京	男性		1		1	2
	女性		1		1	
左京	男性	1		4	5	6
	女性		1		1	
中京	男性		2	1	3	5
	女性		2		2	
東山	男性				0	0
	女性				0	
山科	男性		2	1	3	4
	女性			1	1	
下京	男性		2		2	3
	女性			1	1	
南	男性				0	0
	女性				0	
右京	男性			1	1	2
	女性			1	1	
西京	男性			1	1	2
	女性		1		1	
伏見	男性			2	2	3
	女性			1	1	
合計	男性	1	7	11	19	29
	女性	0	5	5	10	
	合計	1	12	16	29	

4 職業別内訳

(単位:人)

性別	会社員	自営業	パート	学生	無職	その他	合計
男性	2	3	0	1	8	5	19
女性	0	1	0	0	7	2	10
合計	2	4	0	1	15	7	29

市民公募委員 応募レポートの要旨について

1 レポート選択課題①「高齢者が福祉活動やボランティア活動などの地域活動に参加するための方策」について

年齢・性別	レポート要旨
50歳代・男性	「高齢者が福祉活動やボランティア活動などの地域貢献活動に参加するための方策」の基本は、「方略としての参加と対話」であり、行政、高齢者、ボランティア等が課題を共有・解決し、「幸福を実感」できる方策として「幸福実感“井戸端会議”」の実施を提案する。
60歳代・男性	元気な高齢者が、より一層元気に福祉活動やボランティア活動を継続していただくために、以下のとおり提案する。 ① 高齢者による高齢者世帯・一人世帯の見回り担当制度 ② 高齢者と年少者との交流・見守り活動の促進 ③ 高齢者の食育指導への参加促進 ④ 高齢者の趣味・特技登録制度 ⑤ 高齢者を対象とした環境美化委託制度 ⑥ 高齢者による高齢者予備軍への相談窓口業務
60歳代・男性	高齢者の福祉活動やボランティア活動などの地域貢献活動に参加するための方策として、①「幸齢者大学（仮称）」の開設、②民間企業に対し、退職予定者に対する「福祉活動や地域貢献活動」などの奨励の働きかけ、③小中学校や保育所等での教育・保育への高齢者の参画の更なる推進（小学校区ごとに高齢者と子どもの「ふれあい合唱団」の結成と育成）を提案する。
60歳代・男性	高齢者が福祉活動やボランティア活動などの地域貢献活動に参加するための方策として、各行政区の老人会やシルバーセンター内の各クラブから希望を募ること、ボランティアを行う者への財政的支援を行うことなどが考えられる。
70歳代・男性	老人会会員の多様な経歴を生かし、祖父と教師で構成される教育関係団体を組織してはいかがか。
70歳代・男性	市の一人暮らし高齢者全戸訪問の実施に当たっては、事前に予想されるトラブル等について、あらゆる角度からシミュレーションし、想定外と言い訳しないよう取り組まねばならない。
70歳代・男性	高齢者がボランティア活動を行うためには、福祉ボランティアセンターの仲介機能を活用すべきである。高齢者が、これまでの経歴とは異なる分野での活動を希望する場合は、センターが、免許・資格の取得をサポートする機能を発揮すれば、高齢者がボランティアに参加することが容易となる。

70歳代・男性	シニアがボランティアをするに当たり、その豊富な経験を発揮し、各種状態と、その変化に即応して頂けるものと考え、これにより地域社会の活性化に資するのではないかと考える。
80歳代・男性	元気な高齢者の人生経験ノウハウの集積と活用を図り、地域社会に貢献することを目的として自身が立ち上げたグループにおいては、高齢者のコミュニケーションの場づくり、高齢者の豊かな人生体験・特技などを自由に語り合える月例交流会の開催等を行っている。

2 レポート選択課題②「高齢者ができる限り地域で暮らし続けるために必要と感ずること」について

年齢・性別	レポート要旨
20歳代・男性	高齢者が必要とされる環境づくりを行うことさえできれば、地域でできる限り生きようとする気持ちは強くなる。その一つとして、居場所づくりに高齢者が関わることで、地域で暮らし続けてもらえる可能性が高くなる。
40歳代・男性	高齢者が住み慣れた地域でできる暮らし続けるためには、特に、独居高齢者・高齢者夫婦世帯の生活不安を解消するための施策として、①「独居高齢者・高齢世帯を対象とした自治体独自の横だしサービスの充実」、②「元学区を生かした、共助の精神に立った規律ある地域コミュニティの整備」、③「積極的に地域からの相談等を吸い上げ支援するなど福祉機能の強化」等の施策の充実が必要である。
40歳代・女性	高齢者ができる限り地域で暮らし続けるためには、誰もが心地よいと思える居場所を確保することが大切である。地域の中で、高齢者の豊かな経験を人材バンクのような形で登録し、その方の経験を生かせるシステムがあるとよい。また、高齢者が子育て中の方を支援したり、高齢者が困ったときはまわりの人が手伝うなど、人と人との交流を盛んにできるシステムが必要である。
60歳代・男性	高齢者ができる限り地域で暮らし続けるために必要なことは、高齢者の自立度や、夫婦が健在か否か等の状況に応じた支援の仕組みが重要である。
60歳代・男性	高齢者が安心して暮らし続けるためには、住宅面のバリアフリー化、食事・洗濯などの生活支援、習い事交流、移動手段としての介護タクシー、緊急通報システム、リバースモーゲージ等の研究等が、自治体の監視の下に「仕事」として、福祉事業の核として継続的に実行される必要がある。

60歳代・男性	高齢者が、メンバーが固定されている地域の活動に参加しようにも「敷居の高さ」を感じてしまうため、空き店舗を有効利用し、誰でも自由に入出りできる「町家サロン」を、市内の学校や元学区単位で地域の実情に応じた場所に設けられないか。
60歳代・女性	同居者の入院や、怪我等により一定期間一人暮らしの継続が困難になった場合などに、要介護認定の程度に関わらず、施設に短期入所できる制度が必要である。天井に取り付けた蛍光灯の交換など、専門家に依頼するほどではないが高齢者には難しいことを依頼できるセンターがあればよい。
60歳代・女性	年老いても、一人になっても安心して暮らすためには心地よい地域での連携が不可欠であり、誰でも担える仕事づくりや多彩なボランティア活動等がいきいきと生きる応援になる。
60歳代・女性	高齢者ができるかぎり地域で暮らし続けるためには、①医者、②買い物、③なんでも相談できる窓口が必要である。
70歳代・男性	一人暮らし高齢者の孤独を少しでも癒すため、市の福祉関係者が町内会、自治会とより密接に連携して活動することで、孤立死も未然に防げ、一人暮らし高齢者も明日への希望を生むものとする。
70歳代・男性	「高齢者・障害者」が地域で暮らし続けるために必要と感じていることは、「ホットな地域」で安全・安心に暮らせることである。その実現のためには、地域に密着した「自治会・町内会」の役員等が「少子超高齢化社会」に対し如何に積極的に立ち向かうかが重要である。
70歳代・男性	高齢者が地域で暮らし続けるためには、①住居、②医療、③心の悩みやストレスの3点への対応が必要である。
70歳代・男性	高齢者ができる限り地域で暮らし続けるためには、①家族や地域・近隣の人たちとの絆を強くすること、②高齢者は自立（自律）的な生活ができるようにすること、③高齢者は必要以上に医療や介護に依存しないことが重要である。
70歳代・女性	高齢者の知恵や経験が生かせる地域づくりが求められる今、街を活性化する波及効果として、自身が代表を務める団体では、「高齢者のたまり場」的なものをつくり、笑いのある日常を経験してもらう活動を展開している。
70歳代・女性	私はけっして若くないが、若い人には甘え助けてもらい、高齢者の方には積極的に話しかけることで、仲良くこの地域で暮らしたい。

80歳代・女性	高齢者は何時でも和やかで暖かい雰囲気になまれていること、そして自立に必要な最低限の家事手伝いをしてもらえることが、地域・自宅で暮らし続けるために必要であると感じている。
---------	--

3 レポート選択課題③「私が考える地域の絆を生かした高齢者支援」について

年齢・性別	レポート要旨
40歳代・女性	地域の絆を生かした高齢者支援として、子育て中の母親、子育てを経験したことのある人が、自宅で子どもを預かる「家庭保育園」を提案する。
50歳代・女性	私が考える高齢者支援は、「つかず離れず、でも、いつもそれとなく看づけます」をポリシーとした、お互いが余計な気を遣わず、気を楽しにした支援である。
50歳代・女性	住み慣れた地域に愛着がある高齢者は、小・中学校、地域の中にある神社、公民館等、自分たちで、足を運べる場所で、顔見知りの人と交流を持ちたいと感じている。それを実現するための方策として、①井戸端会議、②老人貸し農園の増設、③隣、近所の見守り、④認知症サポーターの増員が重要である。
60歳代・男性	居場所づくりの取組として、居場所として利用できるスペースの活用に対する支援やそれに取り組む団体等への情報提供だけではなく、居場所づくりの初動期における運営ノウハウの伝授や各々の居場所のネットワークづくりも肝要である。
70歳代・女性	10年近く介護の現場で働いて気付いた「元気で楽しく毎日を過ごすコツ」は、①足腰が丈夫で外へ出てよくしゃべる、②目と歯をケアしておいしく食べる、③その人に見合った役割をになう、④リズムのある毎日を過ごすことであり、これは認知症を予防する秘訣でもある。